

令和5年度

# 幼稚園だより 11月号



文京区立千駄木幼稚園

## “憧れ”を大切に

副園長 矢澤 弘美

今年度は、秋晴れの下、全学年が揃っての運動会を開催することができました。

年中児や年少児は、リハーサルの前後から、年長児のリレーやリズムに興味津々でした。そして、運動会当日を経て、さらに「年長さんみたいに走ってみたい」「バルーンって、何だかすごい！」と憧れの気持ちを感じたようです。

運動会後の遊びの中では、年中児や年少児が、年長児のようにリレーごっこを楽しむ姿が見られます。

年中児は、自分なりに腕を振ったり、足を大きく前に出したりして、風を感じながら走る心地よさを感じています。おそらく、頭の中に“格好よく、速く走る年長児”の姿を思い浮かべているのだらうと思います。思うようにスピードが出ないこと、バトンを受け渡す時に次走者の手元を見ることなど、経験してみても分かる難しさも体で感じている

ようです。でも、「速くなったね」「年長さんみただね」と教師や友達から声が掛かると、ますます張り切って、エンドレスで走っています。

年少児の走る姿からは、とにかく、バトンを持って走ることが嬉しい、という気持ちが伝わってきます。年長児が使っていたのと同種類の丸バトンを腕に掛けてみたり、時には頭に載せてみたりしながら、友達や教師と順番に笑顔で走っています。「次は赤色を持ちたい!」「また青色にする!」と、走る度に、バトンの色を変えたいくなるのが年少児らしいです。

年長児は、自分たちを真似る年下の幼児の姿から、憧れられる嬉しさを感じています。力を出して運動会をやり遂げたという満足感があるからこそ、自分のよさや自分が憧れられていることに気付けるのだと思います。年中児や年少児のリレーに入り、少し力を抜いて走ったり、時には思い切り走って「年長さんは、やっぱり速い」と言われることを楽しんだりしています。

憧れること、憧れられることは、成長の大きな糧となります。3年保育ならではの縦の関わり、つながりをさらに深めていきたいと思っています。



< 3学年で大きなバルーンを楽しみました >